

パブリックコメント（第10期高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画（案））の実施結果

実施期間	令和6年1月10日（水）～1月23日（火）
意見数	（人数）1人 ・ （件数）2件

※お寄せいただいたご意見について、個人を特定できる表現や具体的な名称等がある場合は、一部省略しておりますのでご了承ください。

No.	該当項目	提出された意見の内容	意見に対する町の考え方
1	第9期計画の重点方針	<p>3つの重点方針にはとても共感します。</p> <p>「自分らしい暮らし」がキーワードですが、その考えを一人一人に浸透させていくことが重要だと思います。</p> <p>私自身、初めて子育てを開始したとき、自分のやり方や考え方以外の助言や同じ境遇の仲間との出会いがあってやっと「自分らしい暮らし（子育てを含む）」に日々落とし込んでいく気がします。（町の事業でいうと地域子育て支援センターやNP講座に助けられました。）</p> <p>子育てと違い、介護者同士の交流が少ない身内の介護だとなおさら自分だけのやり方考え方で進みがちなのではと予想します。</p> <p>自分にも相手にも「自分らしい暮らし」が大切だという概念の教育、体験ができる仕組みが必要な場合もあるかなと思います。</p>	<p>現在、高齢者施策を含む福祉施策は、「地域共生社会※」の実現を目指しており、これには身体状態や世代、生き方、思想などの個人の“違い”によって、それぞれを区別・分断するのではなく、お互いの“違い”を認め合うことができる社会を作っていく必要があります。</p> <p>特に高齢期には、加齢によってさまざまな機能が衰えることで、以前はできていたことができなくなることがあります。それによって“支援を受ける側”として決めつけられ、生きがいや尊厳を失うことも起こり得ます。できない部分を高齢期の“違い”として認め合い、そのうえで一人の大人として「自分らしい暮らし」を続けられるよう、こうした視点に立って高齢者施策を進めるとともに、啓発や体験（イベント等）を続けることも重要な取組として企画してまいります。</p> <p>一方で、親族の介護者にとっては、老々介護や仕事・子育てとの両立や、ご意見いただいたとおり、身内のこととして抱え込むことで孤立化することも懸念されます。地域包括支援センターをはじめとした専門職の支援に繋がる仕組みづくりや、見守りなど地域の支え合い意識を育てていく取組についても引き続き進めてまいります。</p> <p>※「地域共生社会」…世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会</p>

No.	該当項目	提出された意見の内容	意見に対する町の考え方
2	介護人材の確保	<p>人材の確保について、 介護職員初任者研修の補助対象に町内の高校生、もうすぐ介護をする側になるかもしれない人、少しでも興味がある人などの枠を少しでも加えて高等学校や地域に直接アピールしていけばもしかしたらきっかけになるかもしれません。</p>	<p>人材確保については、ハローワーク等の求人広告だけでは困難であり、多くの事業者が人づてによってなんとか確保している状況です。ご意見いただいたとおり、高校生などの若年層やシニア層を含めて幅広い視点で取組を進める必要があると考えております。</p> <p>また、新たな人材確保と併せて、働き続けられる職場づくり（離職防止）も重要であり、こうした取組に関しては事業者の主体性が不可欠であることから、事業者との協働体制づくりにも注力してまいります。</p>